

米国学生とビデオ会議 国際交流の一環



2年

三反田夏歩

県立広島大（広島市南区）は、国際交流協定校のオースティン・ビー州立大（米テネシー州）とオンライン交流会を続けている。新型コロナウイルス禍で海外渡航が難しくなる中、海外の学生とふれあう貴重な機会になっている。

今春開かれた交流会には、大学側の呼び掛けに応じた県立広島大の23人がそれぞれの自宅などから



県立広島大

ビデオ会議システムを通じて参加。米国側の15人と、英語で会話やディスカッションをして交流を深めた。

両校の交流は、2017年に州立大の教員と学生が県立大を訪問したことをきっかけに始まった。今夏にも開催を予定している。

参加した地域創生学科2年藤岡慶梧さん(19)は「言いたいことを英語で表現することに苦戦したが、もっと英語を話せるようになりたいと向上心が生まれた」喜んでいた。



オンライン上で開かれた米国の学生との交流会

